

特集

武雄焼のある日常。

武雄のやきもの『武雄焼』は、文禄・慶長の役の時、武雄領主に同行した陶工たちによって焼き始められました。現在、市内には70数ヶ所の窯元があり、土味を生かした茶系統の「陶器」と白く輝く「磁器」とに大別され、『武雄焼』にはその両方があります。それぞれの窯元では、伝統的な技法を生かしながら、個性を尊重し、多様な作品が生み出されています。

今号の特集では、「つくる人」と「つかう人」に焼き物への想いを取材しました。

二人が感じる武雄焼の魅力とは。

また、日々焼き物と向き合う窯元のみなさんをご紹介しています。

作品への想いと繋がる秋の窯開き。

ぜひお出かけください。

あなたの日常に武雄焼を。

